

設立40周年の節目を迎えた本年、当センターでは6月開催の理事会において、渡邊肇氏が新理事長に選任されました。本号では、渡邊新理事長からのご挨拶をお届けいたします。

あわせて、当センター設立の原点を振り返る特集と、11月26日に開催する「助成財団フォーラム2025」の概要も掲載しております。ぜひご覧ください。

ご挨拶

社会が前に進むための一助として

公益財団法人 助成財団センター 理事長 渡邊 肇



この度、山岡義典前理事長の後を受けて、公益財団法人助成財団センターの理事長に就任いたしました渡邊肇です。

皆さまには平素より当センターにご支援、ご指導を賜り厚く御礼申し上げます。

当センターは1985年に設立されました。設立当時はバブル期の入口でしたが、日本経済の高度成長・発展の中で政府や企業だけでは解決できないさまざまな社会的課題に取り組む民間非営利セクターの活動が注目されていました。

当センターは、その中でも特に民間助成財団の振興・発展の重要性に鑑み、情報収集・提供、情報交流、人材育成、普及啓発等の諸活動などを通じ、助成財団の皆さまの活動を支援してまいりました。

その後、高度成長期が終焉を迎え、わが国の経済・社会は大きく変貌し、気候変動問題の深刻化、価値観の変容・多様化などと相俟って、それまで以上にさまざまな社会的課題が出現しました。

民間非営利セクターはそうした中、課題解決を牽引する重要な担い手として成長し、その基盤とも言えるNPO法整備や二度にわたる公益法人制度改革も実施され、今や社会に不可欠な存在として認識されています。

行政・企業と協働して民間非営利セクターが社会的課題を解決する「共創」の考え方も広く浸透するようになりました。また、社会的課題の解決のみならず、その先には社会における新たな価値創造への貢献も視野に入ってきました。

2025年4月に行われた公益法人制度の見直しは「民間公益活動の活性化」を目的としており、特に民間助成財団への期待はかつてないほど大きくなっていると言えます。

これまでの40年を振り返り設立以来の志を忘れず、また、現在の世界とわが国の情勢を踏まえ、さらには、民間非営利セクターとりわけ民間助成財団の将来の在り方を展望しながら、当センターは助成財団の皆さまのニーズにきめ細かく配慮したサービスをこれまで以上に効率的、安定的に供給できるよう努めるとともに、助成財団を活用される方々の活動の一助となるよう努力してまいります。

私も甚だ微力ではありますが、理事長として誠心誠意業務に邁進してまいります所存です。

今後とも、これまでと変わらぬご理解、ご支援、また、忌憚のないご意見を頂戴いたしたく、何卒、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 助成財団センターの設立とその原点

— 公益の可視化と未来の社会を支える備え —

1980年代、日本の企業や民間部門による助成活動が拡大を続ける一方で、助成に関する資料や情報は各所に分散し、助成団体相互の連携や社会への情報発信は十分でなかった。助成を求める研究者や市民に情報が届きにくく、財団側も自身の理念や活動を体系的に示す場を欠いていた。こうした課題を起点に、共同の情報発信拠点として誕生したのが「助成財団資料センター（後の助成財団センター）」である。

設立の起点 — 林雄二郎の構想と山岡義典の視座

日本の社会に助成活動を正しく定着させ、発展させていくこと

構想の源流は1983年秋、トヨタ財団専務理事だった林雄二郎先生と同財団プログラム・オフィサーの山岡義典氏の対話にある。東京工業大学教授を務め、トヨタ財団の専務理事として理念構築と実務を牽引した林先生は、助成財団の社会的認知の低さに危機感を抱き、「日本の社会に助成活動を正しく定着させ、発展させていくことは大変困難である。まさに日暮れて道遠しという感を禁じ得ない」と記した。（1983年・センターメモ）。林先生はさらに、「財団活動とは本来地味なものであるが、社会の中でよく見えることが重要である。その努力を個々がばらばらに行うのではなく、財団全体として行うことがさらに重要である」（1983年・構想メモ）とも述べ、「公益を共に見せる」理念を据えた。

山岡氏は「公益とは制度ではなく関係であり、センターは共に考え、共に担うための場である」と後年、当センターの設立意義を総括し、センターの社会的対話拠点としての役割を明確にした。

1985年任意団体設立時 — 林雄二郎理事長

まだ夜明けには遠いが、いま歩き出さねば夜明けは来ない

1985年11月20日、約2年間の準備を経て、29財団の賛同で「任意団体・助成財団資料センター」が正式発足した。この時点で林雄二郎先生が理事長、望月信彰氏が副理事長として組織の先頭に立った。発起人会での林先生の言葉「まだ夜明けには遠いが、いま歩き出さねば夜明けは来ない」（1985年・発起人会発言）は、公益のために財団が協働する意義を力強く示した。翌1986年には機関誌『助成財団』の創刊号の巻頭言で林先生が「公益の営みに見える形にすることが次代の社会を支える礎になる」と記し、公益の可視化の重要性を説いた。



林雄二郎氏

法人化時（1988年） — 豊田英二 初代理事長としての舵取り

財団は社会から預かった資金を社会に返すための器である

1988年4月1日、助成財団資料センターは法人化し、「財団法人 助成財団資料センター」となる。この法人化に際して、豊田英二氏が初代理事長に就任した。

豊田氏は就任式で「財団は社会から預かった資金を社会に返すための器である。助成財団センターはその流れを明らかにし、互いに学び合うための“公開の場”でなければならない」と語った（1988年・法人化記念式典）。また、豊田氏は同年に「助成は“施し”ではなく、“未来への投資”である」と『助成財団』第3号で述べ、公益事業の本質を示した。



豊田英二氏

なお、法人化を目指すにあたっては、山口日出夫氏(当時トヨタ財団理事・事務局長、当センター事務局長、後に専務理事)が中心となって基本財産へ充当する寄付金を集めるため設立発起人を主軸とした82の助成財団及び日本経済団体連合会のご支援のもと、トヨタ自動車をはじめとする多くの民間企業や同業種団体から約5億円の寄付をいただき財団法人の許可を得ることが出来た。

助成活動の社会的価値を更に高めるために

助成財団センターが掲げた設立の趣旨は「**今あるためではなく未来の社会を支える備え**」である。この理念は林先生と山岡氏の協働によるもので、公益活動の可視化、情報の共有と交流、そして社会的対話の機会創出を目的とした。当センターは、この理念を今後も継承し、財団活動の社会的価値を更に高めていきたい。



山岡義典氏

結び — 未来への継承

志を次代へとつなぐ、フォートレスとして

助成財団センターの設立は、林雄二郎先生の哲学、豊田英二氏の行動、そして山岡義典氏の実践と継承が結びついた成果である。林先生が掲げた「公益の可視化」、豊田氏が体現した「社会への還元」、山岡氏が築いた「対話と関係の公益」。この三つの理念が重なり合うことで、日本の民間助成は初めて共通の“公のプラットフォーム”を得たといえる。豊田英二氏は後にこう語った。「**財団の志は利益では計れない。人のために、社会のために続けることそのものが成果である**」(1990年『トヨタ財団ニュース』)

私たちは、この言葉は過去を語るものではなく、未来を照らす言葉と受け止めている。

林雄二郎先生が見上げた“夜明け”の光を、いま、私たちが確かな形にしていこう。

助成財団センターは、その志を次代へとつなぐ、フォートレス(民間助成の力を育む拠点)であり続けたい。

(文責 高木)



助成財団センター 40年の軌跡 — 歴代理事長とともに —

年(期間)	理事長氏名	出身財団/出身財団等の役職	トピック
● 1985/11～1988/3	林 雄二郎 望月 信影 (副理事長)	トヨタ財団/専務理事 日本生命財団/常務理事	● 任意団体「助成財団資料センター」設立 ● 1986年「会員の集い」(現在の「助成財団フォーラム」)開催 ● 雑誌「助成財団」創刊
● 1988/4～1991/3	豊田 英二	トヨタ自動車/最高顧問	● 総理大臣の認可を受け「財団法人 助成財団資料センター」として設立。 ● 助成団体データベース調査開始。 ● 「助成活動情報整備基金」について、大蔵省から指定寄付金の指定、募金開始
● 1991/4～1993/3	高橋 壽常	日本生命財団/理事長	
● 1993/4～1995/3	山下 秀明	旭硝子財団/理事長	
● 1995/4～1997/3	伊藤 昌壽	東レ株式会社/最高顧問 東レ科学振興会/理事長	● 1996年 総理大臣の認可を受け、名称を「財団法人 助成財団センター」に変更 ● 「JFC VIEWS」創刊 ● 2025年現在、第115号までを発行 ● 1999年 ホームページ開設 ● 「助成財団 募集要覧」「助成財団 決定要覧」創刊(いずれも雑誌「助成財団」を改編)
● 1997/4～2001/3	本山 英世	キリン福祉財団/理事長 キリンビール(株)/名誉相談役	
● 2001/4～2005/3	木村 尚三郎	トヨタ財団/理事長	
● 2005/4～2010/6	松方 康	三井住友海上文化財団/ 理事長	● 2006年「制度改革対応プロジェクト」開始 ● 「助成財団 研究者のための助成金応募ガイド」創刊 ● 「助成財団 NPO・市民活動のための助成金応募ガイド」創刊。いずれも「助成財団 募集要覧」を改編 (2025年現在、電子書籍として発行)
● 2010/6～2014/6	熊谷 一雄	倉田日立科学技術振興財団/ 理事長	
● 2014/6～2022/6	山岡 義典	市民社会創造ファンド/委員長 法政大学教授	
● 2022/6～2024/6	出口 正之	国立民族学博物館/名誉教授	● センター設立30周年 小誌編集 ● 公益法人制度改革10周年特別プロジェクト報告書「公益法人制度改革が助成財団に及ぼした影響と今後の課題」刊行 ● 助成団体ポータルサイト「助成情報navi」(現「助成・奨学金情報navi」)を構築、調査表のWEB入力開始 ● 2020年 新型コロナウイルス感染症の拡大
● 2024/6～2025/6	山岡 義典	市民社会創造ファンド/理事長 法政大学/名誉教授	
● 2025/6～	渡邊 肇	元三菱財団常務理事	
			● 2024年6月、理事長及び専務理事が諸事情により同時に退任、山岡氏が理事長に復帰
			● 組織体制の整備拡充

助成財団センターフォーラム2025 のご案内

公益財団法人 助成財団センターでは、来る11月26日(水)に
「助成財団センターフォーラム2025」を開催いたします。
本特集では、フォーラムのテーマとプログラム、登壇者の講演テーマ
およびプロフィールをご紹介します。

テーマ

未来を支える民間助成

一分断が指摘される時代に、人と社会の“あいだ”をつなぐためにー

グローバルな緊張や格差の拡大が進む社会のなかで、人と人、地域と地域、世代と世代のあいだに、さまざまな「空白」や「溝」が生まれています。

私たち民間助成に携わる者は、そうした“あいだ”に立ち、見えにくいニーズや声をつなぎ直し、社会のつながりを支え続けてきました。

本フォーラムでは、学術、福祉、教育、文化など多様な現場からの実践をふまえ、民間助成の果たす役割を改めて見つめ直し、未来を支えるために、私たちに何ができるのかを共に考えます。

開催概要

◆日時◆ 2025年11月26日(水) 13:00～17:30
(懇親会: 18時頃から19時頃まで)

◆開催方法・会場◆ ハイブリッド開催(会場およびZoomウェビナー)
会場: AP虎ノ門 11F Room C・D(港区西新橋)

◆定員◆ 300名(会場: 先着75名)

◆参加費(消費込)◆

参加方法	会員	会員以外	備考
会場参加 (定員75名・先着順)	8,800円	12,100円	同一団体より2人目以降は半額 最大3名まで申し込み可
オンライン参加 (Zoomウェビナー)	7,700円	11,000円	左記の金額にて 同一団体より複数名可
懇親会参加費	7,000円	7,000円	会員・非会員共通価格

参加者募集中

◆こちらの二次元コードよりお申込みください

<https://www.jfc.or.jp/forum2025/>
(会場参加/オンライン配信)



ご登壇者(カッコ内は予定の時間です)

◆来賓ご挨拶◆(13:20～13:40)

公益行政の現状と展望 —民間助成との新たな連携に向けて

内閣府公益認定等委員会事務局 局長(内閣府公益法人行政担当室長) 高角 健志様



1994年:旧総務庁(現総務省)入庁。2011年～2014年:内閣府公益認定等委員会事務局に在職、公益法人制度の移行と監督体制構築を担当。

その後、総務省・内閣官房で地方分権や行政評価などに携わる。2023年:再び公益認定等委員会事務局に参事官として復帰。2024年7月より現職(事務局長)に就任。内閣府大臣官房公益法人行政担当室長として制度設計、法律改正の実務、公益法人制度の改革を推進。

◆第一部 基調講演◆(13:40～14:25)

**科学技術・教育への民間助成に求められるもの
—基礎科学とフリースクールの現場から—**

サイエンス作家・ZEN大学教授 竹内 薫様



1960年東京生まれ。東京大学教養学部教養学科(専攻、科学史・科学哲学)・東京大学理学部物理学学科卒業。マギル大学大学院博士課程修了(専攻、高エネルギー物理学理論)。理学博士(Ph.D.)大学院を修了後、サイエンス作家として活動。物理学の解説書や科学評論を中心に200冊あまりの著作物を発刊。2006年には「99.9%は仮説～思いこみで判断しないための考え方」(光文社新書)を出版し、40万部を超えるベストセラーとなる。物理、数学、脳、宇宙、AIなど幅広い科学ジャンルで発信を続け、執筆だけでなく、テレビ、ラジオ、講演など精力的に活動している。

2016年からは小学校レベルの民間学校「YESインターナショナル」代表も務める。2025年にはZEN大学教授に就任。

※基調講演につきましては後日の録画公開等を予定しておりませんので、当日会場もしくはオンライン参加でのみお聞きいただけます。



◆第二部 実践報告 分野横断セッション◆(14:35~16:15)

アートと地域から未来へ ―現代アート活動による地域活性化活動

公益財団法人福武財団 事務局長 笠原 良二様



【プロフィール】

1968年岡山県総社市生まれ。岡山大学法学部卒業。1991年株式会社福武書店（現株式会社ベネッセホールディングス）入社。1993年より同社の直島開発プロジェクト（現ベネッセアートサイト直島）に携わり、直島事業部長、福武財団アートマネジメント部長、株式会社直島文化村代表取締役社長などを歴任。2023年4月1日より現職。直島町観光協会副会長、直島町産業振興協議会会長も務める。

【財団概要】

平成16年（2004年）2月27日「財団法人直島福武美術館財団」設立。平成24年公益財団法人へ移行。平成24年10月1日「公益財団法人福武学術文化振興財団」（昭和60年設立）、「公益財団法人文化・芸術による福武地域振興財団」（平成19年設立）を吸収合併し、「公益財団法人福武財団」となる。設立目的：ひとびとが「よく生きる（=Benesse）」ことを願い、主に文化、芸術の振興によって、活力にあふれ、個性豊かな地域社会の発展に貢献することを目的とする。

所在地：香川県香川郡直島町 <https://fukutake-foundation.jp/>

いのちを育む支援 ―北海道から発信する生命科学と社会のつながり

公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 理事長 秋山 孝二様



【プロフィール】

1951年1月18日生まれ。

千葉大学教育学部卒業後、東京都江戸川区立鹿本中学校で理科教諭を務め、1979年に株式会社秋山愛生館に入社。1992年代表取締役社長、1998年株式会社スズケン副社長を経て、2003年秋山不動産有限会社代表取締役社長、2013年から同会長。

1996年から公益財団法人秋山記念生命科学振興財団理事長を務めるほか、公益財団法人ワグナーナンドール記念財団理事長、一般財団法人北海道札幌南高等学校林理事長、北海道経済同友会副代表幹事を務める。

【財団概要】

（株）秋山愛生館先代会長故秋山康之進の遺志を体し、同社創業100年記念事業の一環として、秋山喜代の基金寄付により設立。設立目的：健康維持・増進に関連する生命科学（ライフサイエンス）の基礎研究を奨励し、研究者の人材育成および国際的な人材交流の活性化を促進し、その成果を応用技術の開発へ反映させることにより、学術の振興および地場産業・市民活動の育成ならびに道民の福祉の向上に寄与することを目的とする。

所在地：北海道札幌市

若者が未来をつむぐ架け橋に ―異文化の人と人をつなぐ民間助成

公益財団法人かめのり財団 常務理事 西田 浩子様



【プロフィール】

早稲田大学教育学部卒業。人生の大半において教育分野に従事する。1988年にオーストラリアに渡り日本語と日本文化の指導にあたったことをきっかけに、国際交流の世界へ。1994年(公財)AFS日本協会に入職、2004年よりプログラム・ディレクターを務める。2001年ASEAN10カ国の高校生招聘事業立ち上げに関わって以降、アジアとの関わりを深める。2007年NPO法人J-Win事務局長、2008年より(公財)かめのり財団理事・事務局長。アジア・オセアニアの若い世代の交流と人材育成の事業を展開している。2023年より同財団常務理事。他に、埼玉県公益法人認定等審議会委員、(公財)公益法人協会評議員。

【財団概要】

共立ビル(株)の創業者の意思を継いで、同社の拠出資産により設立。設立目的:日本とアジア、オセアニアの若い世代の交流を通じて、未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的とする。

所在地:東京都千代田 <https://www.kamenori.jp/>

人間性・文化性あふれる真に豊かな社会をめざして ―『児童』『高齢・地域共生社会』『環境』『出版』分野での助成事業

公益財団法人日本生命財団代表理事 専務理事 事務局長/助成財団センター 理事
水野 充彦様



【プロフィール】

神戸大学教育学部卒業後、1987年に日本生命相互会社へ入社。その後、2013年に中国の長生人寿保険有限公司の副総経理を務め、2017年に日本生命相互会社神戸総合法人部長などを歴任。現在は公益財団法人日本生命財団の代表理事・専務理事・事務局長として、民間助成財団の社会的インパクト向上と次世代支援の推進に携わっている。

【財団概要】

日本生命保険相互会社の創業90周年を記念し、同社の基金拠出により設立。設立目的:多面にわたる人間生活の諸環境条件について、その総合的な向上を図るため、時代や社会の要請および必要性を把握し、各分野の事業および研究に対する助成を行い、もって人間性、文化性豊かな社会の建設に資することを目的とする。

所在地:大阪府大阪市 <https://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

◆第三部 第一部と第二部を踏まえて登壇者によるセッションラップアップ (16:30~17:10)



第1部の基調講演と第2部の事例報告を受けて、ご登壇者による対話を通じ、民間助成の果たす役割や今後の可能性を探ります。

モデレーター

公益財団法人住友財団常務理事・事務局長／助成財団センター理事
日野 孝俊様

登壇者(第一部、第二部でご登壇いただいた皆さま)

高角健志様・竹内薫様・秋山孝二様・笠原良二様・西田浩子様・水野充彦様

公益財団法人 助成財団センターの評議員・役員(敬称略)

評議員

石田 篤史	公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま理事
井戸 英夫	公益財団法人 東レ科学振興会専務理事
井上 貴博	公益財団法人 ヤマト福祉財団常務理事
江田 一道	公益財団法人 岩谷直治記念財団常務理事
岡本 仁宏	関西学院大学 名誉教授
尾崎 勝吉	公益財団法人 サントリー文化財団専務理事
加藤 毅	筑波大学 教学マネジメント室高等教育研究部門 准教授
亀岡 エリ子	公益財団法人 榎山奨学財団 理事長
清田 慶子	一般財団法人 キヤノン財団 事務局長
齋藤 仁	公益財団法人 SOMPO福祉財団 専務理事
竹之内 勇人	公益財団法人 稲盛財団 事務局長
長谷川 敬恭	公益財団法人 上原記念生命科学財団 事務局長
濱口 博史	濱口博史法律事務所 弁護士
林 嘉隆	公益財団法人 市村清新技術財団 事務局長
廣中 誠司	公益財団法人 庭野平和財団 専務理事
八子 洋介	公益財団法人 JKA 常務理事

理事

渡邊 肇	公益財団法人 助成財団センター 代表理事・理事長
高木 康雄	公益財団法人 助成財団センター 代表理事・専務理事・事務局長
雨宮 孝子	公益財団法人 公益法人協会 理事長
七條 博明	公益財団法人 三菱財団 常務理事
杉本 直樹	公益財団法人 旭硝子財団 専務理事
茶野 順子	公益財団法人 笹川平和財団 常務理事
年代 明広	公益財団法人 キリン福祉財団 常務理事・事務局長
久野 敦子	公益財団法人 セゾン文化財団 常務理事
日野 孝俊	公益財団法人 住友財団 常務理事・事務局長
水野 充彦	公益財団法人 日本生命財団 代表理事 専務理事 事務局長
山本 晃宏	公益財団法人 トヨタ財団 常務理事
渡辺 元	特定非営利活動法人 市民社会創造ファン 副理事長

監事

有井 和久	公益財団法人 電通育英会 専務理事
新里 智弘	新里智弘税理士事務所 公認会計士

NEWS 助成財団
ニュース

新入会員ご紹介

新たに会員になりました2法人についてご紹介します。
(敬称略・順不同)

公益財団法人小野薬品がん・免疫・神経研究財団

(理事長:栗田浩 所在地:大阪府)

がん・免疫・神経の分野において、画期的な研究成(Breakthrough)に繋がる最先端の科学・研究に対する助成を行い、もって国民の健康と福祉に貢献することを目的とする。

公益財団法人スポーツ安全協会

(会長:布村幸彦 所在地:東京都)

スポーツ活動等の社会教育活動の普及奨励、安全の確保、各種事故に対処するための事業を行い、社会教育活動の振興に寄与することを目的とする。

会員募集中!!

助成財団センターの活動を会員として支えてください。
皆さまのご入会を随時お受けしています。
詳細はセンターまでお問い合わせください。



団体会員 一口 60,000円/年
個人会員 一口 10,000円/年

主な会員特典

1. 各種セミナー・研修会等への会員料金が適用され、優先的に参加できます。
2. 助成財団の運営に関する様々な相談が無料で受けられ、関係情報を得ることができます。
3. 部会研究会や研修懇談会等を通して会員同士の研さん・情報交換・交流の場が得られ、ネットワークづくりに役立ちます。
4. 当センターが提供する主要データ集としての『助成団体要覧』『助成金応募ガイド』の無料配布が受けられます(団体会員のみ)。

など

編集後記

●「助成財団フォーラム2025」では、オンライン配信による視聴のお申込みも受け付けております。お忙しい日々のなかでも、それぞれの場所から、助成団体の取り組みや、これからの社会のあり方について共に考えるひとときをお過ごしいただければ幸いです。(原)

●昨年、ある財団の表彰式で、免疫学の研究論文で表彰された先生のご講演を拝聴する機会がありました。

講演の結びに、その先生は「日は暮れど、道遠し」という言葉を静かに口にされました。一つの研究が実を結ぶまでには、数年、あるいは数十年という長い道のりがあります。その言葉には、努力の尊さと、歩み続ける覚悟がにじんでいるように感じました。

今回、当センターの設立の記録をたどる中で、林雄二郎先生もまた、同じ言葉を語っておられたことを知りました。

民間助成が日本の社会に根づくまでの道のりも、決して容易なものではありませんでした。

しかし、その困難を前にしても歩みを止めなかった多くの方々の志と行動が、助成財団センターの礎を築いてくださったのだと思います。

豊田英二初代理事長、山岡前理事長をはじめ、無数の関係者の熱意と工夫の積み重ねが、今日の私たちをここに導いてくださいました。「日は暮れど、道遠し」。この言葉は、困難の象徴であると同時に、歩み続ける者への励ましでもあるように思います。

私たちは、先人たちの志を胸に、公益の火を絶やさず、次の時代へとつないでまいりたいと思います。(高)

ACCESS



※地下鉄丸の内線新宿御苑前駅の四谷寄りの出口をご利用下さい。(四谷方面からお越しの方はホーム中央の地下通路を反対側に渡って下さい。)

JFC Views 特別号 (No.116) October/2025

編集・発行 公益財団法人 助成財団センター
発行日 2025年10月30日
編集人 原田 はるか
発行人 高木 康雄

〒160-0022
東京都新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿4階
Tel: 03-3350-1857 / Fax: 03-3350-1858
URL: <https://www.jfc.or.jp>
E-mail: office@jfc.or.jp

JFC

VIEWS 創造と共生の社会をめざして



「助成財団フォーラム2025」 賛同企業様のご紹介

(同一口数の協賛社様を50音順で掲載しています)

— 助成事業におけるWebサービスを提供 —

APRIL

助成業務システム

助成事業のためのITシステム

助成業務に特化したシステムと、
かゆいところに手が届くサポートで
ひとつひとつの助成業務に寄り添います



特定業務支援システムとして、新たに開発されたWebサービスです。助成申請・審査・助成者管理までをワンストップサービスとしてご提供いたします。事業内容に合わせたシステムのカスタマイズも可能です。DM発送・通知発送業務等のアウトソーシングも承ります。

総合印刷

お客様に相応しい総合的な印刷のご提案
オーダーメイドという贅沢

オンデマンドプリント

ビジネスチャンスを的確に捉える瞬発力
小ロット印刷・大判インクジェット出力

Webサービス

IT・インターネット関連サービス
HP作成・ホスティング・システム開発

APRIL
株式会社 あさひ印刷

本社
〒710-0826 岡山県倉敷市老松町2-8-24
TEL. 086-422-2900 FAX. 086-422-2901

東京オフィス
〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-12 深山ビル4階B号
TEL. 03-6674-0963 FAX. 03-6680-3243

届出電気通信事業者 F-23-00760



SaaS 助成業務システム

Graain

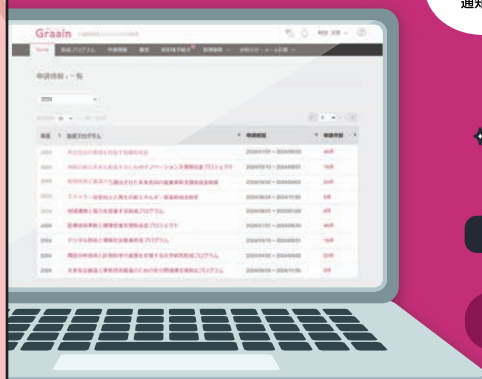
助成業務の省力化、 運用見直しを考え始めたら。



まずは検索！無料サービス資料配布中！

グライイン

検索



書類の郵送や持参が不要！
進捗状況のリアルタイム確認や
通知機能で次のステップが明確！



申請者も！

ペーパレス化で書類管理の負担軽減！
申請者とのコミュニケーションや
審査担当者との連携もスムーズ！



財団事務局も！

時間や場所を問わず審査が可能！
特別な知識がなくても簡単に扱える！



審査担当者も！

【お問い合わせ先】 ☎ Tel 06-6809-4112 (平日 9:00 ~ 18:00) ✉ Mail graain@itup.co.jp

運営会社：株式会社イットアップ

新制度
の
お悩みは

公益法人コンサルティング歴
50年以上の実績であんしん

辻・本郷
にご相談ください

このようなお悩み是非ご相談ください

新 公益法人制度 **新** 会計基準

財団運営 税金

辻・本郷 税理士法人
HONGO TSUJI TAX & CONSULTING

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-1-6 JR新宿ミライナタワー 28階
TEL. 03-5323-3301 (代表)

煩雑な助成金業務に、お悩みではありませんか？

GrantWillは「助成財団の業務効率化に特化」したクラウドサービスです。

GrantWill
助成業務サポートシステム

申請受付から選考、採択、報告書受領までを一元管理

進捗状況をリアルタイムで見える化

ペーパーレス化と業務自動化でコスト削減

今すぐ、業務効率化の第一歩を！

グランウィル
<https://www.yjp-bizimprove.jp/grantwill-info/>

お問い合わせ | **YPG** ワイビーピーズインブルー株式会社

金沢電子出版株式会社は、

助成団体検索サイト **助成・奨学金情報 navi** の

お手伝いをしております！

予算に応じてご提案!! 手厚いアフターサポート!!

ホームページの制作・更新 オンライン研修の導入・支援 各種団体の事務局代行

eラーニングを専門とする大学発ベンチャー

金沢電子出版株式会社
Kanazawa e-Publishing Co., Ltd.
<https://www.kepnet.co.jp/>

助成財団のみなさま、助成金・奨学金をお探しの皆さま、支援者の皆さまへ

助成金応募ガイド2025

日本全国の助成団体や自治体から寄せられた公募情報を見やすく・探しやすくまとめた最新版!



NPO・市民活動団体のための助成金応募ガイド2025

助成プログラムを活動分野別・地域別にご紹介。
申請時に役立つ「助成金応募の手引き」も収録しています。

ISBN: ISBN978-4-915738-30-2



研究者のための助成金応募ガイド2025

助成プログラムや奨学金を、研究分野別・目的別にご紹介しています。

ISBN: ISBN978-4-915738-29-6

電子書籍にて発行! 書籍に関する情報ならびにご購入は以下のページをご覧ください。

各 定価: 3,300円(本体3,000円+税)
<https://www.jfc.or.jp/category/publication/>

詳細は
こちらから

